

原発の大規模災害時の緊急対策のひとつとして

「安定ヨウ素剤」 備蓄・服用のおすすめ

— 甲状腺がん予防のために —

ふくしま共同診療所 院長 松江 寛人

福島原発事故から約3年が経過します。メルトダウンした「汚染格納器」の「除染・廃棄」作業へと長期にわたる危機的状況が続いています。

多くの患者様が、「破損事故の可能性・再爆発の危険性」を懸念されています。

同時に『再爆発・再放射線被ばく時における、ヨウ素剤の準備と服用』について強いご要望があります。当診療所として、それにお応えしたいと思えます。そのうえで、以下の「準備・服用」についての見解をご理解ください。

1 効能・効果

※厚生労働省 2013年4月30日付

効能・効果として、「放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくの予防・低減のために「日医工」のヨウ化カリウム丸 50mgのみが薬事法上承認されました。しかし、「保険適用」にはなりませんでした。

<ヨウ化カリウム>

年齢	経口投与量
新生児	1回あたり 16.3 mg
生後1か月以上～3歳未満	1回あたり 32.5 mg
3歳以上～13歳未満	1回あたり 50 mg
13歳以上	1回あたり 100 mg

2 「ヨウ素剤」の服用は、2次的な・緊急避難的な対応策と考えてます。事故直後に間髪入れずに「避難」すること(できるだけ遠方に、風の方向と直角の方向に)が必要だと考えています。避難前、避難途中に『服用』することで、甲状腺の被ばくを避けられると考えています。事故を起こさないこと・避難することが最優先なのです。

- ①甲状腺に対する内部被ばくの予防には、何よりも「避難」が最も良い方法である事。
- ②「安定ヨウ素剤」の服用は、原発事故発生後できるだけ早期(24時間以内)に行う事。
- ③「安定ヨウ素剤」を内服してから、避難する事。
- ④「安定ヨウ素剤」は、「備蓄し保存」しておく方法が現実的対応と思われる事。
- ⑤「自費」としての取り扱いとなり、現行の「薬価」に準じた価格でお支払い願いたい事。

以上の事をご理解していただいたうえで、「処方・配布」を責任をもって行います。そして「大規模原発災害時の緊急対策」は、政府・電力会社そのものが、「安定ヨウ素剤の保険診療・処方・備蓄」と、避難計画の完全な立案を、全力で行うことが本来の姿だと思っております。ご不明の点・詳細につきましては当診療所にぜひお問い合わせください。

実施要項

- ①カルテを作成させていただきます。氏名、生年月日の確認できるものをご持参ください。
- ②診察を行い、処方いたします。
- ③直接、診療所で「ヨウ素剤」をお受け取りください。
- ④料金は以下のとおりです。

13歳以上・・・50円

13歳未満・・・30円